

RedmineからJiraへの 移行ツールを作ったことで見えてきた、 メリット・デメリット

2025年5月10日

リックソフト(株) - 緑川

目次

1. 自己・会社紹介
2. そもそもJiraとは？
3. 開発した移行ツールの概要
4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット
5. まとめ

1.自己・会社紹介

■ 登壇者

- 緑川 彰太
- リックソフトにてSE（社歴1.5年）
- Redmine歴・・・過去に運用管理を2～3年ほど



■ 会社紹介

- リックソフト株式会社
- Atlassian製品（Jira/Confluence等）のパートナー会社
- SI事業、自社プロダクト開発も



会社オリジナルキャラ
「りっくま」

2. そもそもJiraとは？

■ Jiraとは

- Atlassian社が開発・提供するプロジェクト管理ツール。
- Redmineと同様にプロジェクトを作成し、課題（チケット）に新機能やバグなど起票して管理。
- 有償製品で、DataCenter(いわゆるオンプレ)版とCloud版がある。
- 同社製品と密接な連携が可能。
 - Confluence : Wiki・ナレッジマネジメント製品
 - Jira Service Management : サービスデスク向け製品

<Redmine の競合製品 と同ジャンルの別製品>

3.開発した移行ツールの概要

■ ツール開発の経緯・・・とあるお客様のご要望

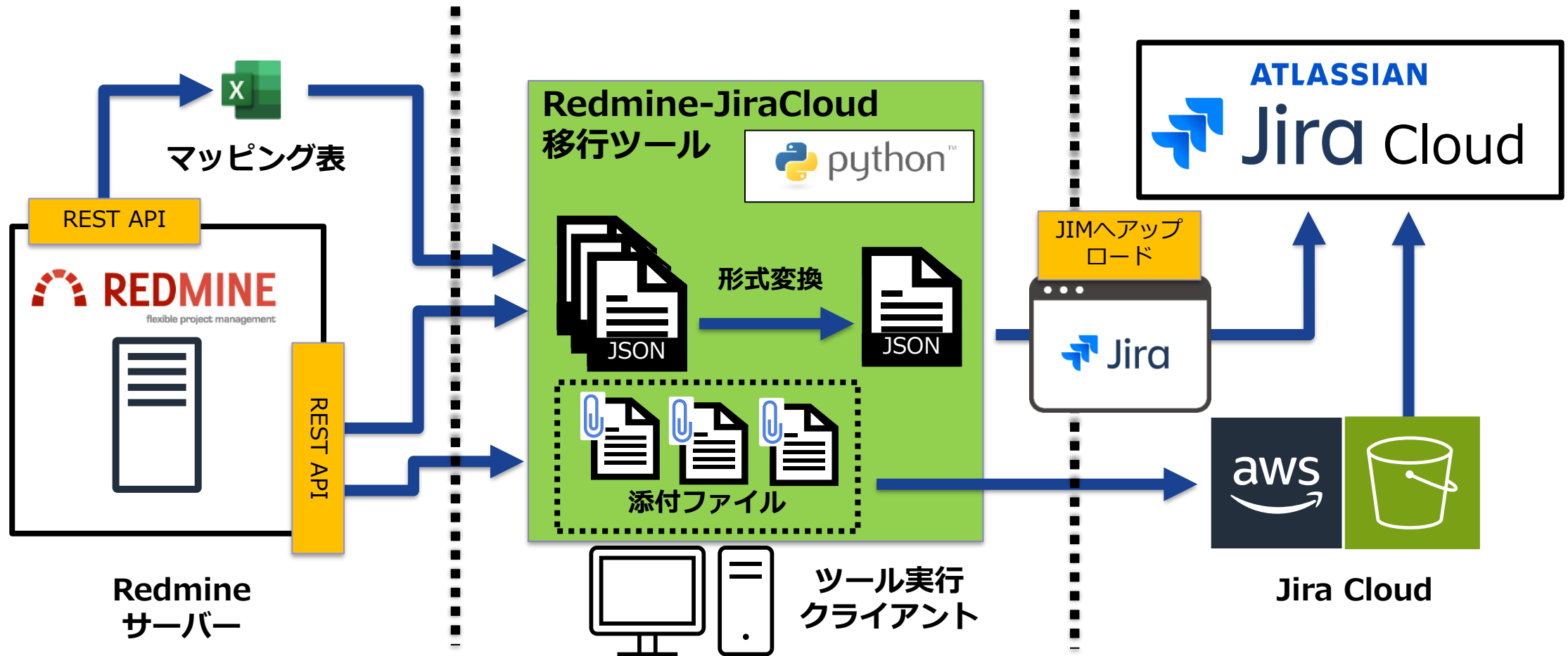
- 「会社としてJira Cloudに一本化するために、過去の全チケットをもっていきたい」
- Redmine標準のエクスポート機能だけではデータ欠如するため難しい
 - コメントが全件取れない、添付ファイルは個々に保存、etc・・・
- 公式の移行ツールは存在しない
⇒ 「ツール開発しましょう！」

■ 移行ツールが出来ること

- CLIツールとして動作し、**Jira Cloud**への移行をサポート。
- Redmineの全プロジェクト・全チケットをREST APIでエクスポートして変換。
 - チケットのコメントや添付ファイル、チケットリンク、作業時間なども全て出力
 - ドロップダウンリストの値やカスタムフィールドのマッピング対応。

3.開発した移行ツールの概要

■ ざっくり概要図



3.開発した移行ツールの概要



ツール開発で、数年ぶりにRedmineを触ったけど、改めて見ると結構いいところもあるな・・・

- ◆RedmineとJira双方の
メリット・デメリットを、評価軸ごとに
比較する形式でまとめてみました！

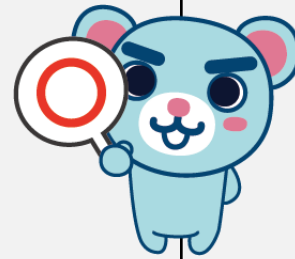
4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット

Redmine

Jira (Cloud)

コスト

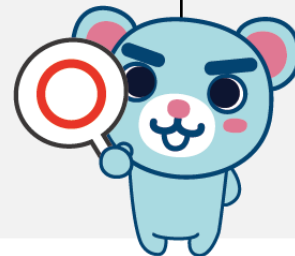
OSSなので**無料で使用可能**。
もちろん機能制限なし、wikiも内蔵。
小規模プロジェクトやチームなら、
その辺りで**余ってるPCでも運用**でき、
ミニマムに運用することが可能。



有償なのでライセンス費が必要。
Wiki(Confluence)は別料金。
Freeプランはあるが、制限もある。
・10ユーザーまで
・一部機能制限 等

動作の軽量さ

基本的には軽快でサクサク動く。
サーバースペックもそんなに要求せず、
オンプレ環境ならネットワーク的な
ラグも発生しづらい。



クラウド製品ゆえ、ネットワーク
越しなのでどうしても多少のラグ
が発生する。
通常の操作では許容範囲。

4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット

Redmine

Jira (Cloud)

機能性

プロジェクト管理・チケット管理のための機能がシンプルに用意されている。比較すると機能は少なめだが、その分、**学習コストが少ないというメリット**も。



基本機能に限らず**JQLでの高度な検索クエリ、アジャイル向け機能**、またUI的にも機能豊富。一方、機能が多い分、**学習コストが高めになる傾向**。

ワークフローや自動化の充実度

標準機能ではワークフローや自動化は限定的で、高度なことをやりたい場合はプラグインやカスタマイズなど拡張が必要になる。



標準のままでもノーコードで様々な前提条件や値の検証、事後操作などに**高度な設定が可能**。アプリ（プラグイン）の追加で更に高度に出来る。

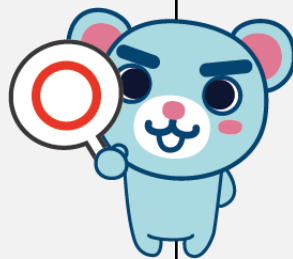
4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット

Redmine

Jira (Cloud)

カスタマイズ性

GUIから出来ること以外にも、直接ソースを修正したり、プラグインも制限が緩く幅広くカスタマイズできるので、ゴリゴリに改造することも可能。
(弄りすぎると逆に地獄に・・・)



カスタムフィールドの追加やオプション項目追加などは柔軟に可能だが、アプリ（プラグイン）から出来ることには強い制限がかかっている。

外部連携

プラグインの導入で可能。
ある程度のデータ操作のREST APIは用意されているので、それらを使って基本的なデータ操作は可能。



様々なサードパーティーアプリと連携できる他、かなり**多種多様なREST APIが用意されており**、これも含めることでかなり高度な連携をすることも出来る。

4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット

Redmine

Jira (Cloud)

運用の手間

バグやセキュリティ対応等でのアップデートは全て自力で対応する必要がある。
⇒適用するスケジュールを自分たちでコントロールできるメリットでもある。



バグやセキュリティ対応等でのアップデート等は全て自動実施。システム内部での運用に専念可能。ただし、適用するスケジュールは自分たちでは管理できない。

将来性

現在も開発が継続されており、2024-11に6.0がリリースされたばかり。コミュニティ活動も活発であり、今後の更なる強化に期待できる。



開発元 (Atlassian) が運営する公式クラウドということで、機能追加など継続的に行われている。最近ではAI機能も搭載しており、力の入った開発が続いている。

4. RedmineとJiraそれぞれのメリット・デメリット

★補足：プロジェクト管理ツールでのAIって何ができるの？ ★

Jira搭載「Atlassian Intelligenc」や「Rovo」での例

- 長い課題説明やコメントの流れを要約
- 自然言語でのデータ検索の実行や、検索用のJQLクエリの生成
 - ○○に関するバグで緊急度の高いものを表示して
- 自動化ルールを自然言語から作成
 - 優先度が○○以上の課題が作られた場合は、XXのサブタスクを自動で作成しつつ担当者にSlackで通知して
- AIチャットでJiraやConfluence(Wiki)内容も参照した回答を生成

5.まとめ

■ Redmine

- ミニマムスタートや、シンプル・小規模な運用には苦勞せず使える。
- 大規模な運用が出来ないわけではなく、実例も既にある。
 - 過去のRedmine.tokyoさんでの発表資料など
- プラグイン拡張で、徐々に活用範囲を広げていくやり方に向いている。

■ Jira

- 高度な機能を標準で備えており、大規模なPJや組織で、高度なワークフローや自動化、外部連携を駆使しながら複雑な運用するのに向いている。
- AtlassianによるAI関係の開発に注力されており、今後も機能拡張が続く。AI活用したプロジェクト管理に今後大きく強みを発揮していく。

**ご清聴いただきまして
ありがとうございました！**